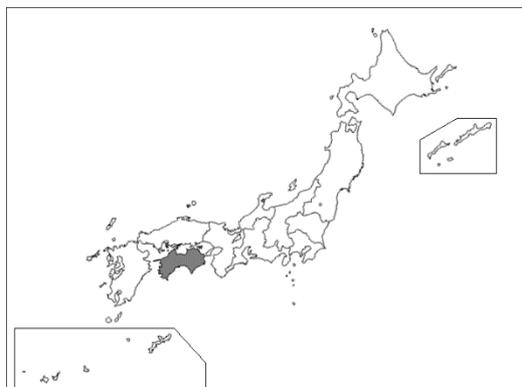


(10) 四 国



四国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

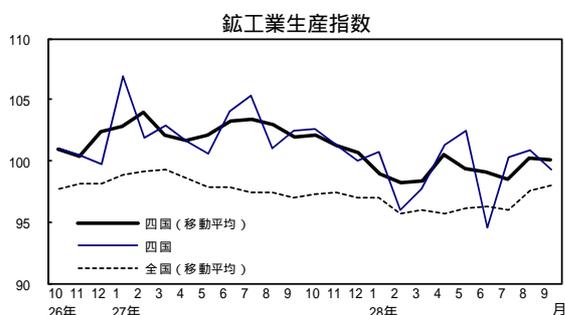
前回調査からの主要変更点

	前回(平成28年8月)	今回(平成28年11月)	
景況判断	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	
鉱工業生産	弱含み	おおむね横ばい	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

7～9月期には、化学は、医薬品等が減少した。電気機械は、開閉制御装置の増産などから増加した。食料品は、横ばい。はん用・生産用機械は、固定式クレーンなど大型案件があり増加した。非鉄金属は、電気銅等が増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
化学	22.9	12.2	10.8	18.5	7.0	9.3
電気機械	15.8	7.3	2.8	1.6	5.0	3.1
食料品	10.5	3.0	0.5	0.4	1.3	3.4
はん用・生産用機械	10.0	10.7	7.4	26.3	18.5	34.0
非鉄金属	8.0	2.7	2.3	10.8	10.4	2.8
鉱工業	100.0	1.3	0.7	6.0	0.6	1.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7～9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。

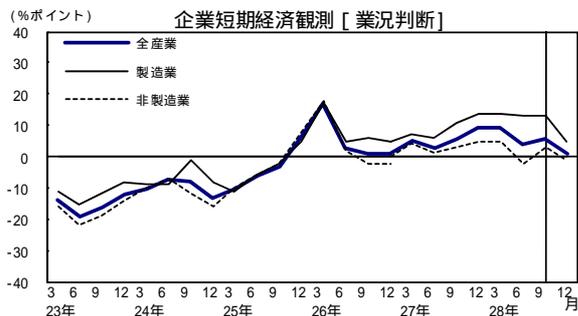
2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

(10) 四国

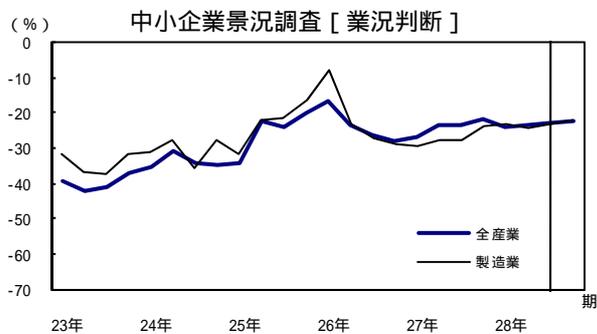
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

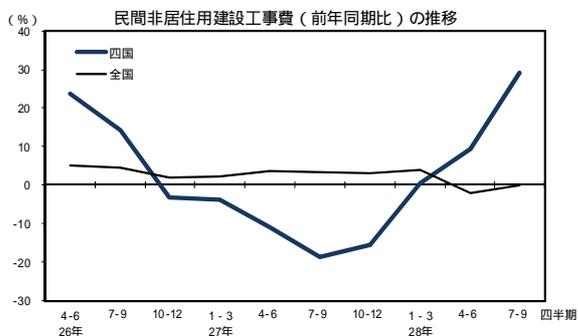


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「貸出金利は低下局面にあるが取引先顧客の新たな資金需要動向に大きな変化は見られず、積極的な設備投資案件も少なく、やや景気の停滞感が感じられた(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	27年度実績	28年度計画
全産業	6.7	0.0(1.6)
製造業	2.5	0.2(0.1)
非製造業	13.3	0.3(3.7)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.6%増、8月は同0.0%減、9月は同0.6%減となった。

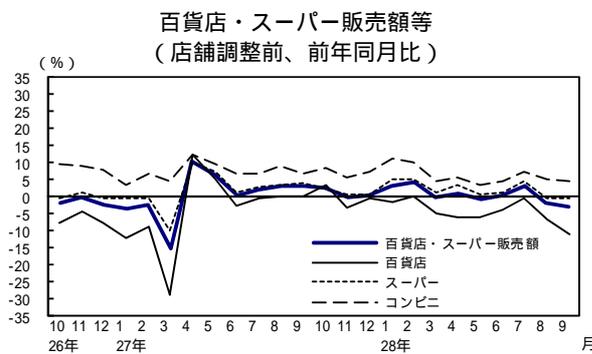
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、衣料品は婦人服の動きが鈍く、飲食料品もギフト用商材が振るわなかったこと等から前年を下回った。8月は、衣料品は夏物セールが振るわず、秋物衣料の動きが鈍かったこと、身の回り品はハンドバッグなどが振るわなかったこと等から前年を下回った。9月は、秋物衣料の動きが鈍く、宝飾品や時計などの高額品の動きも鈍かったこと等から前年を下回った。

スーパーは、衣料品の動きは鈍かったが、飲食料品が好調であったこと等から前年をやや上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「集合住宅の一括契約が少し伸びてきている (通信会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

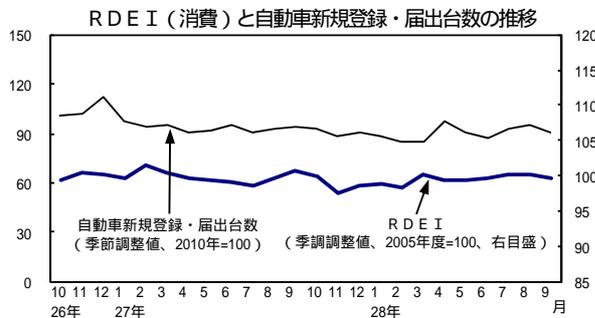


	28年7-9月	28年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.5	0.6	0.0	0.6
百貨店・スーパー(*2)	0.3	3.1	1.7	2.7
百貨店(*2)	5.5	0.7	6.5	10.8
スーパー(*2)	1.0	4.3	0.7	0.7
コンビニ(*2)	5.8	7.4	5.3	4.5
乗用車(*3)	0.6	1.3	3.7	2.9
(季節調整値)(*3)	1.2	6.2	3.1	4.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

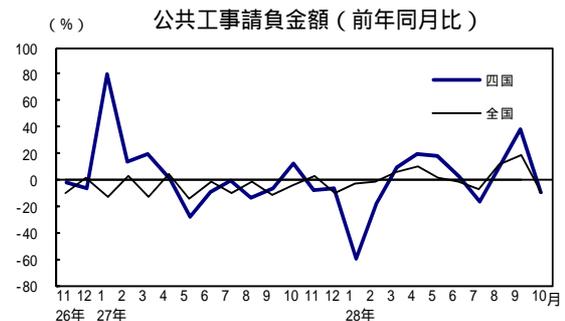
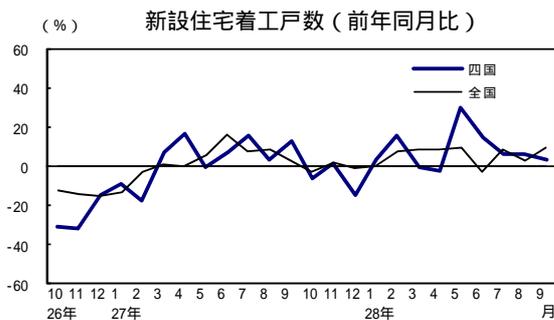
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度を上回っている。



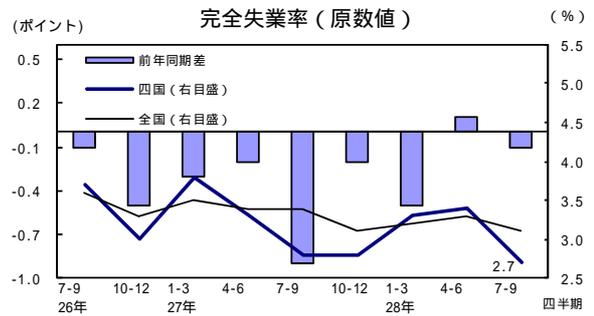
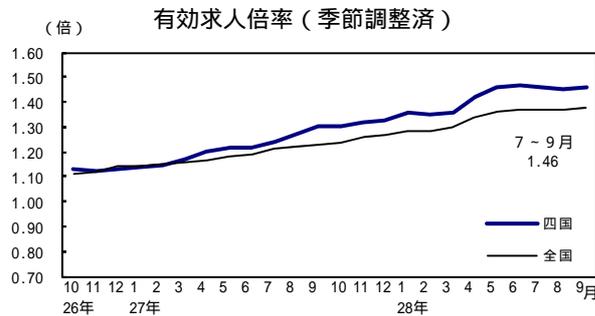
(10) 四国

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [雇用関連 (現状)]

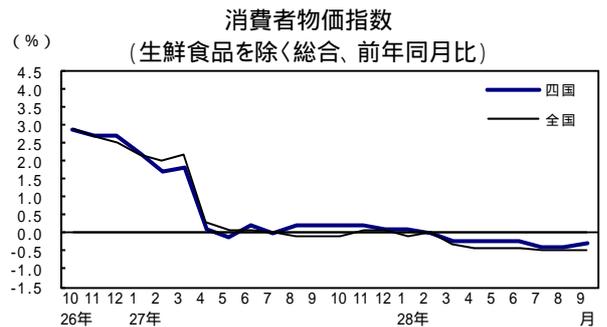
「新聞広告などの受注が、例年より減少傾向にある (新聞社 [求人広告])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年10-12月	28年1-3月	4-6月	7-9月	28年10月
倒産件数	47	44	37	38	8
(前年比)	6.8	22.8	7.5	5.6	61.9
負債総額	83	118	102	42	32
(前年比)	41.4	16.4	69.4	47.8	2.6



景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・宿泊は堅調に推移している。料理部門では来客数が若干増えているものの単価は下落傾向にあり、全体ではあまり変わらない (都市型ホテル)。

<先行き>

- ・海外へ旅行するには年末年始の日並びが悪く、1月3日以降の単価の安い日に集中しそうな状況 (旅行代理店)。

景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

